

記念館新聞

財団法人柳田國男・松岡家
顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038
の12
電話：0790-22-1000

遠野物語出版百周年

記念展開催中

とき 5月30日まで
ところ 記念館 2階

今から百年前に

つくられた逸話集『遠野物語』の初版本を展示しています。この本の内容は、天狗、河童、座敷童子など妖怪に纏わるものから神隠し、怪談など、多岐に渡ります。本の魅力はこれらの話を面白おかしく書くのではなく、民間伝承を元に文学的



「かたらくん」

©柳田國男・水木プロダクション/小学館

な独特の文体で書かれているところがあり、多くの近代文学者たちにも読まれています。



『遠野物語』初版本

福崎の方言

福崎で使われている言葉に「ベッチヨナイ」があります。これは「大丈夫」という意味です。「明日の天気どう?」「ベッチよない」などと使います。

4月18日「朝日新聞」の読書欄の書評で用いられていました。播州出身の美術家である横尾忠則さんは、「散歩の昆虫記」という本文中の「地球もやがては消滅する。」という著者の言葉を受けて、一般論として「人間には知性がある、べつちよない(大丈夫)」という認識があるけれど、「横尾さんは書評を展開しています。」

くによはん覚書

○ 猪と猿と 獺 むじな かわうそ

むかしむかし、猪と猿と獺の三人がつれ立って、弥彦詣りに出かけた

ことがあるそうです。その途中で三人は拾い物をしました。その拾い物は

は蕨しんがが一枚、塩しごかますが一吠

と豆が一升とでありました。これをどういう風に分配したらよいか。

中々相談がまとまらなかつたそうです。そのうちに猪は賢いからこう

言いました。

獺は池を見付けて一吠の塩を打ち込み、其後から水の中に入って見

ますと、塩水が眼にしみて真赤にただれてしまいました。

猪がずるいからいけないと、二人で苦情を言いに猪のうちへ行きまして、其間に猪は一升の豆をちゃんと食べてし

ま

つて山の樹の上に登ってひろげて、方々を眺めたらいいじゃないか、魚を浮かせて捕ったらいいじゃないか。私は残りの豆を貰って食べようと言いますと、他の二人はうっかりと賛成してしまいました。

猿は喜んで樹の上へ蕨を持って行って、それを敷いて見物をしよう

としますと、すぐにすべってしまつて、猿も木から落ちました。そうして足をくじいてしまいました。

獺は池を見付けて一吠の塩を打ち込み、其後から水の中に入って見ますと、塩水が眼にしみて真赤にただれてしまいました。

猪がずるいからいけないと、二人で苦情を言いに猪のうちへ行きまして、其間に猪は一升の豆をちゃんと食べてし



さる

むじな

かわうそ

会員募集中!

ま

財団法人柳田國男・松岡家顕彰会は、一昨年、会員制度を発足させました。入会者には会員証をお渡ししています。

法人会費 一〇〇〇〇円

個人会費 一〇〇〇円

特典 記念館無料入館



個人(本人+家族一名) 法人(一口・四名まで) もちむぎのやかた レストラン1割引他